

## 輸入は銅地金急増、スクラップは減少 発生少ないが余り気味か

橋本 橋本健一郎氏リポート①

十一月前半は、トランプ政権が進める税制改革を巡り、上院共和党が法人減税の実施を一年先送りすることを検討していると伝わったこと、この最近の「ツケ」の急騰がファンダメンタルズより投機的な意味合いが強いのではないかとマーケットの判断から下げからの連れ安などのマイナ

ス材料もあったが、十月の米消費者信頼感指数は〇〇年一二月以来の高さとなり、シカゴ購買部協会景気指数(PMI)は市場予想に反して前月から上昇したこと、十月の米雇用統計は非農業部門雇用者数が二六万一、〇〇〇人増と二〇一六年七月以来の大幅な増加に。事前予想の三二万人増は下回ったが、失業率は〇・一%低下の四・一%で約一七年ぶりの低水準だったことを好感しLME銅相場はUP、十一月十五日時点六、八二二・五ドル(セツル)と月初価格より二〇・五ドルUPの前半締めとなった。

後半は、北朝鮮は新型の大陸間弾道ミサイル「火星一五」の発射が成功したと発表と、中国の国家発展改革委員会は地方政府の鉄道事業への出資を中央政府が検査する方針を明らかにし、急速なインフラ投資で債務が膨れあがっているとの懸念などのマイナ材料もあったが、米上院予算委員会が上院共和党が提出した税制改革案を可決したこと、ペルーのサザンコーパにて現地二十一日の夜から労働者がストライキに入ることと通告したこと、LME銅相場はUP、十二月二日現在、後半スタート価格から一八・五ドルDOWNの六、七三四ドル。銅建値は八〇万円のスタート。

◆月間のドル/円レート (TTS)  
一四・六〇→一二・八七(田)。

◆自動車生産台数  
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・四%増の八三万〇、九二〇台であった。

◆自動車販売台数  
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・四%減の二五万八、二六四台。

◆新設住宅着工戸数  
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比四・八%減の八万三、〇五七戸であった。

◆貿易関連指標  
輸出  
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

気銅が二三・三%減の三万四、一〇七t、スクラップが一三・二%増の二万七、一〇一t。

輸入  
輸入は電気銅が前年比六二〇・三%増の一、四四八t、スクラップが一五・五%減の九、七六七t。

■前月の国内指標  
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比七・五%増の七万一、三七九t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比一〇・一%増の六万二、八〇〇tであった。

■概況  
【自動車生産】

十月の四輪車生産台数は八三万〇、九二〇台で、前年同月比六・四%増となり、一三カ月連続で前年同月を上回った。

輸出は四万一、二七七台で前年同月比二・九%減。

【自動車販売】

十一月の国内自動車販売台数(軽除く)は二五万八、一六四台で前年比五・四%減と、二カ月連続マイナス。このうち、乗用車五・五%減、貨物五%減、バス二・六%減。

【住宅着工数】

・平成二十九年十月の住宅着工戸数は八万三、〇五七戸で、前年同月比で四・八%減となった。また、季節調整済年率換算値では九三・三万戸(前月比二・〇%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で四カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では五カ月連続の減少(前年同月比四・八%減、季節調整済の前月比では一・一%減)。

【貸家】

前年同月比では五カ月連続の減少(前年同月比四・八%減、季節調整済の前月比では五・五%減)。(六面へ続く)

## (四面より続く)

## (分譲住宅)

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比四・八%減、季節調整値の前月比では二・〇%減)。

## ・分譲マンション

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比一六・九%減)。

## ・分譲一戸建住宅

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比五・〇%増)。

## 【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比七・五%増の七万一、三九七と、三カ月ぶりの増加。

このうち、内需五万九、三〇五とで六・九%増と三カ月ぶりプラス、輸出一万二、〇七四とで一・五%増と二カ月連続プラス。

品種別では、銅条二万三、八三六とで九・八%増と一八カ月連続プラス、黄銅棒一万六、六一五とで三・八%増と三カ月ぶりプラス

## 【電線】

前年比一〇・一%増の六万二、八〇〇と、このうち国内八・六%増、輸出が七・九%増。

出荷部門別では、通信七・五%増、電力八・一%減、電気機械七%増、自動車一六・二%増、建設・電販一一・一%増、その他内需六・五%増。

【輸出】電気銅輸出が二三・三%減の三万四、一〇七と、銅スクラップは一三・二%増の二万七、一〇一と。

【輸入】電気銅が六二・〇・三%増の一、四四八と、スクラップは一五・五%減の九、七六七と。

## 【見通し】

・自動車は生産が六・四%増。国内販売台数が前年比五・四%減。生産が一三カ月連続プラス、販売が二カ月連続マイナス。

今後も続くか注意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で四・八%減と四カ月連続マイナス。下げ傾向かどうか今後の動向に注目。

・伸銅品は三カ月ぶりの増加、前年比七・五%増。

需要の多い銅条が一八カ月連続プラス、黄銅棒は三カ月ぶりプラス、輸出二カ月連続プラス、黄銅棒が今後もプラスに続くかどうか注目。

・電線は前年比一〇・一%増の六万二、八〇〇と。輸出が七・九%増。需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ一六・二%増、一一・一%増。全体として回復傾向。

・銅輸出は内需用途から地金は減少、スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加。

・銅輸入は内需用途から地金は増加、スクラップはメーカーの原料地金シフトから減少。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は、伸銅品生産が回復傾向にあるが、未だスクラップとして市中に流通していないことから、引き続き発生玉は少ないのではないかと。

需要面に関しても、年末休業要因や、住宅で四カ月連続減少、自動車も販売も二カ月連続減少していることや、引き続き人手不足問題からメーカーが地金を優先に使用していることから、スクラップは余り気味なのではないかと。

## 【価格・為替予想】

今月は来年に向けての中国環境規制の動向や北朝鮮問題に左右される。

来年に向けての中国環境規制の動向に関しては、雑品の輸入禁止やPM二・五抑制のための生産禁止、抑制がさらに厳しくなるのは間違いないが、一方で建築に関しても規制がでるとの情報もある。

北朝鮮問題に関しては中国の仲裁も空しく、再び北朝鮮がICBMを発射、それに対抗する形で米国が最大規模の軍事演習を行うなど解決の目途は立っていない。

それらを踏まえた十二月の銅価格は、中国が環境規制で建築などの需要に向けての規制を行わず、北朝鮮が追加的な軍事的アクションを起こさなかった場合、先月一段高値の六、九〇〇ドルを予測。いずれかの場合六、八〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月安値の六、七〇〇ドル。

為替は、前記材料から円安値は九月後半安値の一四円一・一(円(TTM)台を予測。銅建値に関しては七九〇〇八三〇円程度と予測している。

L M E 非鉄在庫 (12月5日発表分)

|             | 入 庫    | 出 庫   | 12月4日<br>現 在 | 増 減      |
|-------------|--------|-------|--------------|----------|
| 銅           | 10,650 | 525   | 192,550      | + 10,125 |
| GA W        | 0      | 0     | 0            | ± 0      |
| GA C        | 10,650 | 525   | 192,550      | + 10,125 |
| す ず         | 0      | 20    | 2,375        | - 20     |
| 鉛           | 775    | 275   | 145,400      | + 500    |
| 亜 鉛         | 0      | 2,450 | 207,250      | - 2,450  |
| アル ミ        | 0      | 2,600 | 1,101,950    | - 2,600  |
| ニ 次 合 金     | 0      | 0     | 13,000       | ± 0      |
| ニ ッ ケ ル     | 0      | 1,884 | 376,644      | - 1,884  |
| アルミニウム(ASA) | 0      | 40    | 183,000      | - 40     |

(単位: トン)